

祝七五三

大賣出し

喜好屋吳服店の努力
社奉仕として

反物三反
一二圓で呈上

但... 数に限りあり
... 一日に一百點
... 其他各種新柄入荷

喜好屋
吳服店

十月十日
診察開始

院長 醫學博士 菊地泰助
副院長 醫學博士 松野松治
外科 皮膚泌尿科 野田宏
頭部醫學博士 松永琢磨
衛生試験所(理化學的検査) 主任 醫學博士 菊地泰助
技師 和田宇市
藥劑師 吉本孝平
病院長 醫學博士 賀澤忠治
産婦人科 耳鼻咽喉科 追道開始

平町警 共濟病院
電話六四一
診察時間 午前九時より午後二時迄
急患は此限りにあらず

美味 平町紺屋町(縣社通り)
イロキ合堂
オの部電話四六〇番

第二病室
増設

高久病院

院長 醫學士 高久清忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
平町田町 電話五二三番

年末年始の贈答には
金物、食器を

關原商店

小兒科一般、内科、皮膚花柳病科(血液検査)
外科、婦人科、耳鼻咽喉科
特設 動脈硬化症及中氣及肩コリ(血壓検査)
◎藥價 大人一日一劑 金十七錢五厘
小兒一日一劑 金十二錢五厘 ◎診察料無料

池田次郎
河井壽雄

平町實費病院
平町郵便局裏通(電話五五一番)

貸家廣告

白銀町 勤人向 十五圓
仲間町 勤人向 十五圓
五丁目 勤人向 十五圓
北白銀 商店向 七圓
小郷村 勤人向 十二圓
加藤營業所
白銀町 電話三二番



原齒科醫院
平町土橋通り電話三二番

外科一般
耳鼻咽喉科
女性病科
×光線科
赤心堂病院
田町 電話四七五番

美術表具
玉成堂
平町二丁目
平銀行裏川岸通り

父一郎儀告別式の際には
遠路の處態々御參列御
焼香を辱ふし難有奉謝
候一々拜趨仕筈に候へ
共御芳名洩伺の儀も難
計に付乍略儀以紙上御
厚禮申上候

滑川瑞
外親戚一同

福島縣立磐城中學校長正六位滑川
一郎儀校葬の際には遠路の處御參列
御焼香を辱ふし難有奉謝候御尊名
洩伺も可有之に存じ乍略儀以紙上
御禮申上候
大正十五年十二月十七日
磐城中學校々友會
同窓會

常新新聞
日刊
發行所 常新新聞社
印刷所 常新新聞社
電話六三〇番

常警論壇
若槻首相の
良心の發動を待つ
代議士 山口 義一

大浦内相辭任聽許となる
や七月三十日大隈首相は官
邸に閣議を開き監督不行届
の責を負ひ辭職の意を述べ
各大臣亦連帶責任總辭職の
事に決し、即刻辭表を捧呈
し同時に江木内閣書記官長
(今日の法相)より内閣總辭
職の理由として左の如く發
表する所あつた。

又た恐懼措く能はざる所
なり、是れ謹んで辭表を
捧呈したる所以なり。
然るに八月五日に至り、大
隈首相は再び閣議を開き元
老より留任勸告を受けたる
趣を報告し此の際居居り留
任の覺悟を述べたる所あつた
然るに加藤外相(故憲政會
總裁)を始め若槻藏相(今
日の首相)及び八代海相の
三氏は何處までも連帶の責
任ありとなし總辭職の決行
を極力主張したのであつた
(つづく)



末年初 活生の供子

適當な仕事を 與へて働かせ

忙しむて邪魔にするな 曾我第一校長談

年末の冬期休課で學校が閑もなくなりお休みになるが、學校が休みであるからといって子供のおそびたいまに、あそばせて放縱な生活に流されさせるはならぬ、小學生は父兄が充分に保護し導かねばならぬのであるから年末で家庭が多忙であるからといって邪魔にし子供の欲するまゝに活動寫真やその他へ追ひやるといふやうなことは子供の將來のために最もよろしくない、時代相も昔とは大分變つて來てゐるから

子供に も歳晚気分を教へるの必要であり第一に働く習慣をつけねばならぬ。それには休課を利用するのが一番よい、學校が休みだとして安んずることを考へないで家庭の手傳ひをさせ適當に仕事と與人間は働かねばならぬことを教へ込むことは特に

女兒に は最も必要である働かせよといふことは子供に過度な労働をさせよといふのではなく、家庭の仕事で子供に容易に出来る適當なことを手傳はせるのである、ごうしても勤勉正確、活動的習慣を養はねばならぬから寝る時間起きる時間も正確にし

充分に 睡眠させて夜ふかしや朝寝坊をつしませねば自然になまけものになる、休みであるからよろしいといふことが遂に習慣となつて、なまけものになる、平町は夜ふかしには都合のよい場所であるが、深夜の賣出し等に過ぎやうなから

知らず 知らず夜ふかしをするやうになるが、子供の時からなまける習慣のつくのは人間として最もおそろしいとて遂には働くことを嫌ふやうになるのだまは正月の遊戯に勝負事に熱中させるのはよくない常に何んの氣なしに遊んでゐるメンコ打ちの如きも

家庭で 充分に取締つて勝負事の習慣をつけぬやうにしたい、遊ぶにも上品な遊戯に導くやうに努め休課中も學校の復習を怠らしてはならぬ、學校生活は規則正しいもので單面目であるが社會生活は近頃やゝもすると父兄として考慮せねばならぬやうなことがあるとして

休課中 は自然に子供が社會生活の渦の中で遊んでゐるのだから子供はごうしても眞面目な道を進ませるやう保護してやらねばならぬ、たとひお正月でも遊ぶとのみにふけらせないで學ぶ習慣を忘れぬやうにする、わが國では正月に讀書初めとか

書初め 等のが昔**馨中校庭に** 香燒縷々として昇る 本日故滑川氏告別式 既報故馨城中學校校長滑川一郎氏の葬儀は本日午前十一時自宅出棺、馨中校庭に到着、靈柩の周圍は花輪に依つて飾られ午後一時から校葬告別式執行さる、式場には四張の天幕が張られ一般参列者着席、靈柩と向へ合つて千餘名の馨中生徒起立、栗山泰音師を導師として崇嚴なる讀經裡に焼香縷々として立ち昇る、續いて弔辭に移り

赤十字社總代伏見平町長 縣下中等學校校長總代羽岡 福島中學校長、本縣教育會代表大久保學務部長、



家庭欄

球根の保護 十月頃土におろしたチューリップ、ヒヤシンス、フロッジャ、ユリ等の球根を植へた場所を霜や雪などに浸

されることがよくないのでカラワラをおほつてそれを防ぐ必要があります。乾いた時以外には水をやることはいたらないと思ひます。ダリヤの球根は掘出したものをみみぬかの中に入れて乾燥した場所におくか或は暖かい場所の土地を二尺ほど掘つて埋めておきますといひ

長中から補充するらしく相馬中學校長千葉穂三郎氏の呼び聲が高く相馬中學へは田村中學校校長唐土齊治氏田村中學へは相馬中學の教頭北澤貞造氏が扱てきされる模様である

稲作減收 勿 小作者は平和 石城郡勿來町地方の本年度稲作は早害のため年から一割乃至五分の收穫減を來たしたが同村振展會の叫を貸與し其の他等級検査を受け小作米の奨励をなしてゐる結果小作争議などは全くなく極めて平和なものである

から行はれてゐるがこれ等の傳習はいつまでも無くしない子供に學ぶといふ習くわんをまづ讀書始めから習くわんづけたいものである家庭が多忙だから子供を見捨て、おく自由に欲するまゝに遊ばせておくとは思ふ(平危險なものであると思ふ(平第一小學校長曾我直治氏談))

回顧すれば故先生が馨陽の地に再び來り吾が母校に校長として茲に六星霜に其の席温まるを知らず一度は遠く滿洲の天地に又晩近は台灣に涉りて其の教育状況を視察せられ益々吾が母校々運の振作を期する處ありしに不幸にして天壽を傷け泉下の旅路に就かむ誠痛嘆これに過ぎんや然れ共先生が今日迄盡瘁せられたる精氣々魄は永へに後進の鑑戒となり將來有形無形の靈となつて現れ先生が地下の靈に酬え奉るを期す仰き願くは安らかに眠りて就かせられよ涕泣して先生を告ぐ 大正十五年十二月十六日 同窓會長 白井一郎

藤田編物講習 既報平町藤田裁縫女學校の第二回文化器編物講習會は廿日より四日間同校に於て開かれる筈だが今度は前回の夜の爲め都合の悪かつた人々の爲めとして毎日午前九時より午後三時迄と爲した由因に會費は二圓であると

平青年幹部會 平青年團にては今十六日午後六時より馨城銀行樓上に於て幹部會を開き忘年會開催の件、其他を協議すると

ますに冬を越す事が出來ます。芝生の手入れは二月頃硫酸アンモニヤをごく薄く水にどかして芝生の面にまきます。その他人尿を水に薄めてまくのもよろしいのでせうがその上によく土を五分ほど埋めならしておきますと春芽が見事にもえるのであります

新米出盛りで 米價が漸落 平町買入値段 石城郡地方は目下新米出廻り最盛期となつてゐるが米價漸落のため十五日平町における買入値段は

一畝(八斗)に付 無検査米(庭渡)三圓五錢 同 (持込)三圓三錢 受檢米(庭渡)三圓五錢 同 (持込)三圓三錢

で石當りにすると三十二圓五十錢といふ安値でこれを四分減と見て白米にすると一升三十四錢強といふ割合で農家は生産費にも合はぬので非常に困憊してゐる

校長の後任は 千葉相中校長か 突然死亡した縣立馨城中學校長滑川一郎氏の後任者縣當局の意見として縣下の校

これまで協定の 年八分を 固守して來たが今度はこの協定を破り増配を行はんとするものがあるやにて某行は氣早やにも一分増配を公表したがかうあつては他の銀行もだまつて見て居られまいからこゝれまた増配を決定すべく銀行屋さんだけは景氣のよい話である

健全主義で 押し通したお蔭 平地方の銀行界は 案外に成績が良い 世間の不景氣を他所に案外樂觀の平町地方各銀行も目下下半期の決算期に入り多忙を極めて居るが數年來甚だしい財界の不況に各行共少なからぬ脅威をうけたが早くも財界の成行を察した同地方銀行業者は

固き決心 と覺悟をもつてこれに對したので案じられた成績も悪い所か反かつて良好となり今期も豫

ばならぬから寝る時間起きる時間も正確にし

なまけものになる、平町は夜ふかしには都合のよい場所であるが、深夜の賣出し等に過ぎやうなから

子供の時からなまける習慣のつくのは人間として最もおそろしいとて遂には働くことを嫌ふやうになるのだまは正月の遊戯に勝負事に熱中させるのはよくない常に何んの氣なしに遊んでゐるメンコ打ちの如きも

休課中も學校の復習を怠らしてはならぬ、學校生活は規則正しいもので單面目であるが社會生活は近頃やゝもすると父兄として考慮せねばならぬやうなことがあるとして

子供が社會生活の渦の中で遊んでゐるのだから子供はごうしても眞面目な道を進ませるやう保護してやらねばならぬ、たとひお正月でも遊ぶとのみにふけらせないで學ぶ習慣を忘れぬやうにする、わが國では正月に讀書初めとか

から行はれてゐるがこれ等の傳習はいつまでも無くしない子供に學ぶといふ習くわんをまづ讀書始めから習くわんづけたいものである家庭が多忙だから子供を見捨て、おく自由に欲するまゝに遊ばせておくとは思ふ(平危險なものであると思ふ(平第一小學校長曾我直治氏談))

回顧すれば故先生が馨陽の地に再び來り吾が母校に校長として茲に六星霜に其の席温まるを知らず一度は遠く滿洲の天地に又晩近は台灣に涉りて其の教育状況を視察せられ益々吾が母校々運の振作を期する處ありしに不幸にして天壽を傷け泉下の旅路に就かむ誠痛嘆これに過ぎんや然れ共先生が今日迄盡瘁せられたる精氣々魄は永へに後進の鑑戒となり將來有形無形の靈となつて現れ先生が地下の靈に酬え奉るを期す仰き願くは安らかに眠りて就かせられよ涕泣して先生を告ぐ 大正十五年十二月十六日 同窓會長 白井一郎

藤田編物講習 既報平町藤田裁縫女學校の第二回文化器編物講習會は廿日より四日間同校に於て開かれる筈だが今度は前回の夜の爲め都合の悪かつた人々の爲めとして毎日午前九時より午後三時迄と爲した由因に會費は二圓であると

平青年幹部會 平青年團にては今十六日午後六時より馨城銀行樓上に於て幹部會を開き忘年會開催の件、其他を協議すると

日刊 (發行兼編輯人 川崎文治) 本社下町番地 (電話六三〇番) 印刷部 常務毎日印刷所



刊夕日七十月二十

定部金貳圓 零售每份五分 廣告費 第一版每行五十字 第二三版每行三十字 第四版每行二十字 印刷部 電話六三〇番

常警論 壇

若槻首相の良心の發動を待つ

代議士 山口義一

聖六日大隈首相は總辭職決行主張者たる加藤、若槻、八代三相を各別に招致し其の留任を懇諭せしが各相其の主張を固く持して辭意を翻さず、結局大隈首相は三相の辭職を認容し、内閣を改造し、居残り留任を敢てすることゝなつた。

右の如く當時加藤外相、八代海相及び若槻藏相の三相が大浦事件に關し、内閣連帶總辭職の責任ありとし憲政の大義に基づく總辭職を決定すべきを高唱力説し固く執つて辭意を翻さず遂に辭職を執行したる事は立憲治下に於ける内閣責任の大義に立脚し國務大臣の責任を痛感したるに外ならざる所であつて、之を立憲的責任を無視し、元老の勸告に籍口して、居残り留任を敢てしたる大隈首相其他の各相に比し、天地霄壤の差ありと云ふべく、其の正々堂々たる立憲的態度は洵に以て範とすべきであると言はねばならぬ。而して右三相の中、加藤伯は既に幽明境を異にし、八代氏は樞府

一冊の代金で御希望通りな五冊の雜誌が自由に讀める川崎文庫 電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

鐵道省御用 前駐平 花沢西良商店

インコレ印 平町四丁目 會田時計店 電話三六三番

正月の御用意には是非今月より傑作揃の新譜
浪花節に音楽
陽気に
小唄に民謡
おへの宿替に
落語喜劇等
澤山人荷致しました

祝七五三 大賣出し

喜好屋呉服店の努力
社會奉仕として
反物三反
二圓で呈上
……但……限りにあり
……し……一日に一百點
……其他各種新柄入荷

吉 喜好屋 吳服店

平町實費病院

平町郵便局裏通 (電話五五一番)

主効 心臓病、腎臓病、十二指腸虫病、黄疸、産後血之道、小兒疳の虫に不思議にヨクキク

家傳青病藥 定價 (一週間分) 金壹圓

本藥は代々前記疾患の難病者に施薬し來れる靈藥なれど今般廣く諸人救済の目的を以て販賣せるものなり

本舖 福島縣石城郡七番村 鈴木銀太郎

特約店 磐城平二丁目 西村屋藥店 岩田屋藥店 同本町石如 菊田屋藥店 同勿來町 同四ツ倉町 同小名濱町 同江崎町 同小川町 同澤渡村市草野 同小川町 同小川町 同川崎町 同大津町 同高野町 同金屋町 同野野町 同水戸町 同野野町

小兒科一般、内科、皮膚花柳病科(血液検査) 外科、婦人科、耳鼻咽喉科
特設 動脈硬化症及中氣及肩コリ(血壓検査)

◎薬價 大人一日一劑 金十七錢五厘 ◎診察料無料 小児一日一劑 金十二錢五厘

診療主任醫 池田次郎
火、金、出張同 河井壽雄

平の山の手の稱ある胡摩澤の高台
縣社八幡宮裏手の參千餘坪の土地
をお貸しします。

◆春うららかに夏は新緑滴る郊外住宅。秋色たゞよい冬暖かな郊外住宅。小供の健康によい郊外住宅。

◆附近の重なる建物——八幡宮。中學校。裁判所。小學校。女學校。

◆水道電氣の取附容易

◆御希望の方は左記へ御來訪下さい

マツモトヤ 電話二二四番
百澤商店 電話一二番

十二月十七日替り
大縣實映書
不知火?
今や満都に於て驚倒的大高評! 必ずキネマファン
の御期待にそむかず

市川百々之助大會
余興福袋抽籤
現代映畫劇其の他公開
入場者に福袋進呈

有聲座

平町紺屋町(縣社通り)
オンス十四錢
上オンス十六錢
一等品オンス十八錢
特等品オンス廿錢
米國製上等スコッチ
オンス十二錢

玩具 平一丁目
森下商店
糸類 まめ屋

外科 專門

入院應需
上田外科醫院
平町 南町
電話 一二九番

内科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。

磐城病院

平町田町本通り
入院隨時(電話一二四番)

聖上陛下……

半睡半眠の御状態

御疲勞は一段と

御増加の御模様

(十七日午前八時卅分、宮内省發表) 昨夜三時御安眠あらせられたるも其後半睡半眠の御状態にあらせられ御心臓の御衰弱は以後御回復あらせられず御疲勞一段と御増加の御模様に伺ひ奉る

益々歳末の氣分が濃厚

平町の商店

いよ／＼年の瀬が迫って慌ただしい歳晩の色が日毎に濃厚さを増して来る況して濱通り隨一の商業地とうたはれてゐる平町の昨今は殊にそれがみられ呉服商、メリヤス、毛織物商、洋品商等の如き、はては海産物商金物商の如きに至るまで赤白とり／＼の大賣出の旗を店頭にかざし客の引込策に餘念がなく各種産地商人は入り込んで暴落品の投資をして街頭を賑はし地元商人亦これに倣らひ數回に亘つて大賣出しをなしその競争頗る激甚を極めてゐる

年末の平驛

大閑散な

構内はカラ／＼

歳末繁忙期に入つた平驛の荷うごきは例年ならば貨物の發着も著しく増加し乗降客も殖む相當繁忙を見るもの今年には頗る閑散で平時と大差なく旅客大貨物を始め年末に殺倒する等の小荷物も殆ど増加せず如何に不景氣だかどうかゞはれるが



家庭欄

肉を軟く煮る法

先づ肉はこま切りに限りませし、決して上等の肉には及びません、そして一度食べず、煮方を求めに限りませ

年の瀬も迫つて

藝妓や 酌婦の 悲しき 志願者

平署の玄關口に 願ひ出が押すなく

差迫る正月を前にして昨今平署の玄關へ藝妓と酌婦の許可願ひが押すなくの盛況ぶりで營業主任の佐川さん眼鏡の曇りを拭きながら「これは例年を通じての傾向だとは言ひ今年はやうに多い歳はなかつたらうと思ふ先月から今日迄に願ひ出た数は藝妓の部が廿二名酌婦の部が廿三名といふのでそれをいち／＼受け身許調査をした上差支なしとなれば許可する段取だ、そして特に注意すべきは其中出

製炭量増加

濱三郡の 客月は十四萬俵

濱三郡では木炭の需要期に入ると同時にその製炭量著

人形愛好者へ!!

引返した

過般の陸軍自動車隊の強行軍に際し本縣に入るや石城郡より双葉郡にかけ國道の橋梁たる處陥没し豫定より三日も遅延し双葉郡の如きは殊に甚だしく熊町村以北に到底進行する見込立たず陥没の状況を全部寫真に撮影し行程を變更し止むを得ず引返したが本縣濱通りの國道橋梁は恐らく日本一の悪道であらうと

初春用帯丸

時落 代付 趣味 豊趣

初春用の帯は訪問着だとか振袖などの模様よりのものもつと豊富を極めて一層凝つた好みを見せてゐる。即ち糸綿だとか、紋鹽瀬等の地にお正月らしく、矢張り訪問着等に見る様な鳳凰とか瑞雲等を慶長時代の模様など、調和よくあしらひそ

菊田實科中學校

に鮮かだから十七八歳の若い令嬢向きにふさはしいものである、次ぎに同じく糸錦の白地に柳を寫實的な模様として處々に現しそれに

五七の

桐を現した扇面八重梅の裏を見せた扇面などをその柳の模様にあしらひかけた丸帯などは若奥様向きにふさはしい物である。この外一般に半扇面に牡丹或は羽衣御所風の模様をあしらつた物などどりの趣きを見せてゐる

軍事教練

成績は良好

平町警城中學校軍事教練の査閲は十四日同校々庭に於て執行査閲官は若松第二十九聯隊長上野四郎大佐で午前中は五年午後は四年以下

平郵便局

多年懸案の 明年度に實現

の査閲を執行終つて講話があつた成績は良好であつた

募集

文藝其他投稿を募集します